



社会的に生み出される差別の 重層構造に関する社会学的研究

保健福祉学部 人間福祉学科
准教授 澤田 千恵（さわだ ちえ）



連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3419号室
Tel 0848-60-1274 Fax 0848-60-1274
E-mail casano@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 社会学 女性学 社会病理学

キーワード： ジェンダー 精神医療被害 差別

● 現在の研究について

専門は社会学と女性学です。社会的に作られている差別の重層構造を解明し、社会的弱者の人権擁護と尊厳の回復をめざすことが、私の研究の目標です。

1. 摂食障害の経験を持つ女性たちにインタビューをし、現代日本社会において若い女性であることが、いかに体重や容姿の管理と深く結びついているかを社会的に分析しました。

『女はなぜやせようとするのか—摂食障害とジェンダー』（勁草書房、1996年。山川菊栄賞受賞）

2. 性の商品化やポルノグラフィをめぐる問題について、女性の人権の観点から研究を行いました。『セクシュアリティをめぐるって』（共著、新水社、1998年）

『身体のエシックス/ポリティクス—倫理学とフェミニズムの交叉』（共著、ナカニシヤ出版、2002年）

3. 現代社会では「心のケア」の名の下に、生活上の問題から悩んでいる人たちが患者として治療されるようになってきました。薬の副作用による健康被害や生活の質の低下、家庭崩壊など、治療による社会的転帰の悪化について、当事者へのインタビュー調査を行い、明らかにしました。

「精神医療における「過剰診断」と「被害の語り」」
（『社会臨床雑誌』24(3) 22-49、2017年2月）

● 今後進めていきたい研究について

国は自殺対策として、メンタルヘルス対策を重視し、精神科や心療内科の早期受診・早期治療を薦めていますが、その結果として、受診者が急増し、医療機関側も患者ひとり一人に十分な時間をとれなくなっているのではないのでしょうか。そのことが、医療機関で処方された薬の過量服薬自殺や薬物依存の増加にもつながっていると考えています。そこで、薬物療法に依存しないサポート・ネットワークの可能性を探る研究を実施します。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

精神医療による被害を受けた当事者や家族による会と連携して、被害者への聞き取り調査を行い、被害が生み出される社会的メカニズムを明らかにします。具体的な被害の概要を明らかにし、人権救済と被害防止策を国に提案していきます。

● これまでの連携実績

日本女性学会第10・11期理事。平成14年度広島県管理者研修講師「女性の人権問題について」、NHK専門研修講師「放送倫理と人権」（2002年9月11日）、全国婦人相談員連絡協議会講師「2002年全国DV研修」、神奈川県川崎市人権懇話会作業委員など。高校生対象の授業では、薬物依存やダイエットの問題など若者に身近な問題について社会学の立場から読み解く授業を行いました。